

『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』 の漫画の感想レビューに関するアンケート 調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』を読んだことのある20代～50代の男女31名
調査期間	2025年12月17日～2025年12月18日 2025年12月26日 2026年1月30日 2026年2月27日 2026年3月27日 2026年4月24日 2026年5月29日 2026年6月26日 2026年7月31日 2026年8月28日 2026年9月25日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/hukusunohaken/

■アンケート項目

Q1: 年代と性別を教えてください。

Q2: 『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』を実際に読んだ感想を教えてください。

Q1: 年代と性別を教えてください。

20代男性	1人
20代女性	0人
30代男性	5人
30代女性	0人
40代男性	1人

40代女性	4人
50代男性	20人
50代女性	0人

Q2:『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』の感想を教えてください。

『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』1巻	課長の黒崎だけでなく、同僚達も酷いですね。黒崎に言われて仕方なくとかならまだしも、嬉々としてひどいことをしていたのですから。こんな環境の中で美咲はよく仕事を続けられたものだと感じました。注目したいのは里子の動きです。すでに決まっていた内定を辞退してまで、明光堂に潜り込みました。自分が美咲の妹だとバレないように、名字まで変えて。復讐劇の始まりにワクワクしています。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』1巻	美咲が主人公だと思って、ひどすぎるハラスメントに憤りながら読み進めていたら、美咲が自ら命を絶ててしまい驚きましたが、姉の死の理由を察して復讐を誓った妹の里子の視点に切り替わるという流れがドラマティックで引き込まれました。美咲がかわいそうすぎて、直接的な危害を加えた黒崎課長や田代専務だけでなく、陰口をたたいていた同僚たちにも痛い目を見てほしいなと思ってしまいました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』1巻	ブラック企業に姉を殺されてしまった里子が、復讐のために着々と計画を進めていくところがカッコ良くて痺れました。敵は多人数なので、里子一人で勝てるのかわからない緊張感も漂っていました。ブラック企業にいる人たちのクズ描写もこれでもかというほどにたっぷり描かれており、この人たちがどんどん成敗されるのかと思うと、早く続きが読みたくなりました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』1巻	本当に展開が辛辣ですね。主人公里子のお姉ちゃんが会社からとんでもないパワハラに苦しめられるのですが、その場面が本当にむかつきます。「こんな会社本当に存在するのかな」と思えるくらいの性格の悪い上司がいて、本当に見ていて嫌になってきます。でもそれと同時にこの先この上司にどのような罰が下るのかそこが楽しみで仕方がないという気持ちにもなります。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』2巻	里子がやってくれました。矛先が里子に向いただけに、不安だったんですけどね。そんな心配は無用でした。ひどい扱いを受けながらも、着々と復讐の準備は進んでいた模様。奥野の慌てる姿にはスカッとしました。他にも西条が何者なのか気になりました。奥野をハメたぐらいですから、里子の協力者である可能性は高いと思います。しかし西条を紹介したのは黒崎なわけですから、一概にそうとも言い切れません。現時点では黒崎側なのか里子側なのかの判断も難しく、西条がどういう人間なのか知りたくなりました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』2巻	1巻でとても姉妹の仲が良かったことが描かれていたので、大好きな美咲を追い詰めた加害者たちに対する里子の憎しみは相当なものだろうと想像できますが、衝動的な怒りに突き動かされての復讐ではなく、事前に清掃員として潜り込んで相手の情報を収集したりと意外と冷静に復讐計画を立てているようで、美咲が生きていた頃の天真爛漫な姿との落差にびっくりしました。ルミがどんなふうに関われるのか、楽しみです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』2巻	姉の復讐のために会社に潜入した里子ですが、まるでスパイのように情報を内側から探っていくところがカッコいいです。本当に一般人なのか疑ってしまうほど手際が良く、それくらい綿密に復讐の計画を立てていたのが伝わってきました。ターゲットとなるルミという女はいかにも嫌なやつで、里子の復讐劇をさらに応援したくなりました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』2巻	いいお姉ちゃんだったのかもかもしれませんが、死んでしまったらおしまいです。そうなる前に助けを求めたらよかったのに。そして2話でついに里子の復讐が始まります。1話は目をそむけたくなる嫌な現実がいっぱいでしたから、少しずつスカッとが楽しめますね。というか、葬式で悪口を言っているような会社なのですから清掃員として潜入して更に職場に。いくらでも会社の実態が見えてくる。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』3巻	里子が策士過ぎました。奥野からすれば、西条は黒崎から紹介されたわけですから。会ってすぐに信頼してしまう気持ちもわかります。でも、里子はその心理の隙を上手についたんですね。お見事でした。あと里子が何を企んでいるのかも気になりました。黒崎とはフィジカルで大きな差があり

	ます。真っ向から挑むべきではありません。そのことは里子も重々承知していると思うだけに、この行動の裏には何があるのか注目したいです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』3巻	里子がどんどんルミを追い詰めていきながら、的確に内部の情報を引き出していくところが今回の見どころだと思いました。姉を失ってしまった里子は、もう誰にも止められない復讐の鬼となっていました。さらに今回のエピソードでは、里子以外の新たな被害者が見つかったりして、物語が予想外な方向に進んでいくところが面白かったです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』3巻	西城が単なるルミを陥れるための協力者ではなく、彼の家族も美咲と同じく明光堂の被害者で、復讐のために里子と手を組んでいたということが明かされた時は、確かにあんなにひどいことを全員がグルになってしていた職場なら、被害者はこれまでたくさんいただろうなととても納得できました。若い女性である里子の力だけではやれることに限界があると思いますが、他の被害者やその家族などが力を合わせれば専務を失脚させることもできそうで、期待が高まりました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』4巻	黒崎がクズ過ぎてどうしようもないですね。今もそうですけど、学生時代からどうしようもない男だったとは。黒崎が今後改心することはないでしょうし、容赦なく制裁を加えて欲しいです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』4巻	田代が気にかかりました。あの口ぶりからすると、里子が暗躍していることに気づいているかもしれません。となれば、何等かの手立てを打ってくるのではないのでしょうか。田代が一体どのようなアクションを起こすのか、注目したいです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』5巻	見事な復讐劇でした。まさか自分が呼んだ舎弟達に処されることになるなんて、黒崎は想像もしていなかったでしょうね。悔しがる姿にスカッとしました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』5巻	気になったのは、最後の展開です。黒崎に対する復讐劇は果たしたものの、里子が逮捕されてしまっただけでは意味がありません。まだ田代という大ボスが残っているのですから。警察が里子のもとを訪ねてきたのはどういった理由によるものなのか、注目したいです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』6巻	里子が無謀な行動に出たことには驚かされました。これまで慎重に準備を重ねてから動いていただけに、意外に感じます。それだけ加瀬の言葉が里子に強い影響を与えてしまったのかと感じました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』6巻	気になるのは加瀬の動向です。里子は加瀬を利用しようと考えているのではないのでしょうか。しかし、田代には警視総監の拝島がついてます。警察上層部から圧力がかかることは間違いないでしょう。その時、加瀬がどのような対応を見せるのか注目したいです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』7巻	里子の行動には疑問を感じていました。あまりにも無謀で、まるで自殺行為のようにも思えたからです。しかし、その意図が少し見えてきたように感じました。おそらく里子は、最初から命を落とす覚悟で田代のもとへ向かったのではないのでしょうか。その最期を証拠として残し、田代を社会的に追い詰めるための切り札にするつもりだったように感じました。万博のドリームビジョンに何が映し出されることになるのか、注目したいです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』7巻	ようやく裁かれるときでしょうか。里子がどうなったのか気になりますが、本当に命を落としたのか。さすがに亡くなっていないと思うのですが、とりあえず、どのように田代を追い詰めるか楽しみです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』8巻	田代が里子を殺害する場面の録画データが存在していたことも衝撃でしたが、それ以上に里子が生きていたという事実には驚かされましたね。あの流れからすると、自らの命を犠牲にして真相を暴いたのだと考えていましたから。だからこそ、生存が明らかになった瞬間のインパクトは非常に大きいものでした。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』8巻	田代のしぶとさには不気味さすら感じます。あれだけ決定的な証拠を突きつけられてなお、犯行を否認する姿勢は常軌を逸しているとも言えるでしょう。今後、田代がどのような手を打ってくるのか、引き続き注目したいところです。

『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』9巻	改めて、田代の恐ろしさを感じました。ここまで決定的な証拠を突きつけられたのです。もはや、田代に抗う術はないと思っていました。それだけに、まさか状況を覆し、無罪にまで持ち込んでしまうとは驚きです。周囲を巧みに誘導し、自分たちに有利な流れを作り上げる手腕には恐ろしさはありません。社会的制裁を与えようとするのではなく、黒崎のように処理しておくべきだったのではと感じました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』9巻	流石に胸糞悪すぎる展開です。親まで巻き込んで、さらに追い詰めるなんて本当に一筋縄ではいかないですね。せっかく身を削って追い詰めたのに、無罪になってしまうとは。本章が始まったばかりなので、まだまだスカッとする展開は来なさそうです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』10巻	里子の気力には驚かされました。田代が無罪になったことを受けての発言は、決して負け惜しみではなかったのでしょう。真の狙いは田代その人ではなく、その背後で事件を揉み消せるほどの権力を持つ人物を突き止めることだったのだと思います。とはいえ、だからといってすぐに気持ちを切り替えられるものではありません。里子は文字通り命を懸けて田代を断罪しようとしていました。その結果が無罪となれば、普通なら絶望や虚脱感に襲われてもおかしくないはずです。それにもかかわらず、里子は立ち止まることなく次の一手へと動き出しました。まさにバイタリティの塊と呼ぶにふさわしい人物であり、その不屈の精神には感心させられました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』10巻	嫌な展開が続くけど、2年後になってくれてよかったとは思いました。これで、一旦嫌な流れは断ち切れたはずです。これからは里子の反撃の時間です。まずはあの調子に乗ったハゲですね。里子がどのようにして復讐していくのか楽しみです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』11巻	里子の執念、恐るべしといったところでした。安静にした生活を送るならまだしも、このように普通の人のように活動しては、炎症を起こす確率は相当高くなるでしょう。しかし、そんなことを全く意に介していないところが凄いですね。文字通り命を賭けて拝島たちを追い詰めようとする覚悟が伝わってきて、驚かされました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』11巻	加藤の今後が気になります。少し前までは拝島に心酔していましたけど、これで拝島は想像していた人物ではないとわかったでしょう。もしかすると里子の協力者になってくれる可能性もありますし、今後の動向に注目したいです。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』12巻	里子の対応が見事でした。自分に対して、あれだけ酷いことをしたのです。いくら復讐のためとはいえ、ここまで徹底して演技し続けることは普通できないでしょう。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』12巻	背中を触られたところが印象的でした。咄嗟のことでしたし、思わず拒否反応が出てしまってもおかしくありません。それでも里子は感情を表に出さず、平静を装いました。よくここまで自分の心を殺せたものだと感心しました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』13巻	里子の罠が、あまりにも鮮やかでした。あの拝島に硫酸を渡すなんてと驚きましたけど、すべて里子の術中であつたとは。拝島の人間性をよく理解した作戦であり、感心してしまいました。
『復讐の派遣 ～この会社、地獄送り～』13巻	未来のことが気にかかります。今は気づいていませんけど、拝島が死んだと知れば否応なしにでも気づくでしょう。自分の動画が祖父の死に影響を与えたのではないかと。このことが未来の心境に、そして事件の捜査にどのような影響を与えるのか注目したいです。